

新入生諸君!! 新学友諸君!!

現在農業は日本資本の編成下にあがめている。その農業編成を纏めないと、日本資本の動向の秘密のメールを脱がす作業をするのが、このことの主たる事である。日本農業は戦後、農地改革により、それまでの封建性自小、作農並行性から、戦後資本主義世界で帝日主義的地位にたったアメリカの農地改革並行的実質的ヘゲモニーの下で、アメリカ型民主主義(ジェファーソン以来の農本主義的民主主義)をしこうとしたが、朝鮮動乱を起点に、日本における急速な重工業化がすすみ、それに伴った型で資本の原産も同様にすすむ。そこにはあっては、農業は工業化に因る労働者のプールとしてあり、現在的にはその資本のしわせ点が田舎者、過疎貧困化となって表われている。この農民を根本的に抑圧の対象としてあがめ、又日本帝日主義が十九百六年の日韓条約をメルクマールに東南アジア諸国を覆い被つておこうとしている。その中で農業は、米は東南アジア一帯から、日本の工業製品との不等価交換により、東南アジア一帯から収奪し、国内にあっては畜産を中心的に生産するとの具体的方針である。そこに因っては後進日の農業生産を高めなければならず、具体的には封建的土地所有型体から農地改革が必要であり、又そこには現在的に農民の反封建、反帝日主義の解放斗争が必然である。しかばねは帝国主義には無くて我々が後進日農民と対立し、現在のアメリカがなしている罪を我々がすることなのである。

以上が現在まで我々のなした研究内容のアウトラインである。しかし現代の農業問題は、まだその秘密をどのような研究者もといっていない。又細分化されながらの研究内容と社会的実連性をみなければ、自然科學者とは言えない。

特に農聖、農学科、農芸化学科の学

友諸君の入ゼミをまっています。

ゼミ室は学生会館三階農学生会内

現代農学ゼミナール